

## 平成 30 年度 法奥小学校 3 年生「ブナの森たんけん学習」

三八上北森林管理署

8 月 28 日火曜日、十和田市立法奥小学校 3 年生 7 名が、十和田市奥瀬幌内山国有林 80 林班ろ小班内ブナの巨木「森の神」周辺で、「ブナの森たんけん学習」を行いました。

この学習は、法奥小学校が取り組んでいる「みどり学習」の一環として、実際にブナの森に行き、森の多面的な役割やそこで生きる生物の大切さなどを学ぶ活動で、三八上北森林管理署と連携して毎年実施しています。

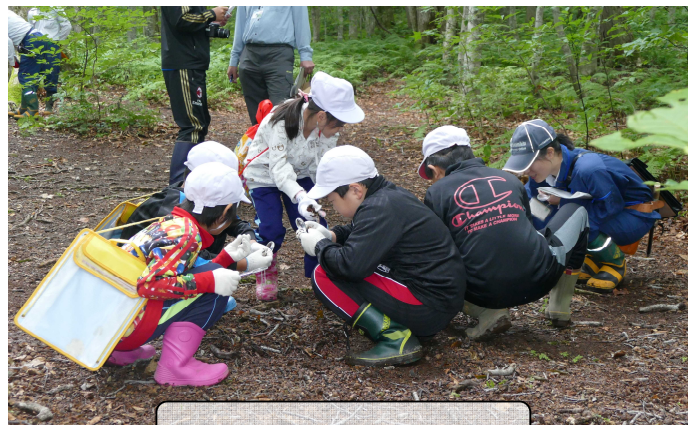
当日は、まず歩道沿いにある樹木について説明を行い、葉の形を観察したり、においをかいでみたり、樹皮を触ったりして、森林には様々な樹木があることを知っていただきました。子どもたちはカツラの葉の甘い香りに「キャラメルみたい」と驚いたり、トチノキの実を割って「クリみたい」と中身を確認したりして楽しんでいました。

「森の神」の前に到着すると、「森の神」は現在保護柵で囲んでいて直接触れることができないため、幹回りと同じ 6m の長さに結んだロープを皆で広げて太さを確かめました。水源涵養機能や地球温暖化防止といった森林の役割、森林の大切さについて説明を行った後は、虫眼鏡を持って付近を散策しました。子どもたちは、ブナの実や小さな虫などを熱心に観察していました。また、木の高さや太さについて、立てかけた測棒を目安に樹高を目測したり、輪尺をあてて胸高直径をはかる体験もしました。

最後に子どもたちから、「ブナの森にはいろいろな葉や木があっておもしろい」「知らない木があったけど今日勉強してわかったので木の名前を覚えたい」「葉にいいにおいがあった」といった感想をいただきました。この学習をきっかけに、子供たちが森林に対する理解を少しでも深めていただければ嬉しく思います。



カツラの葉は甘いにおい



虫眼鏡を持って観察



木の太さをはかってみよう

